

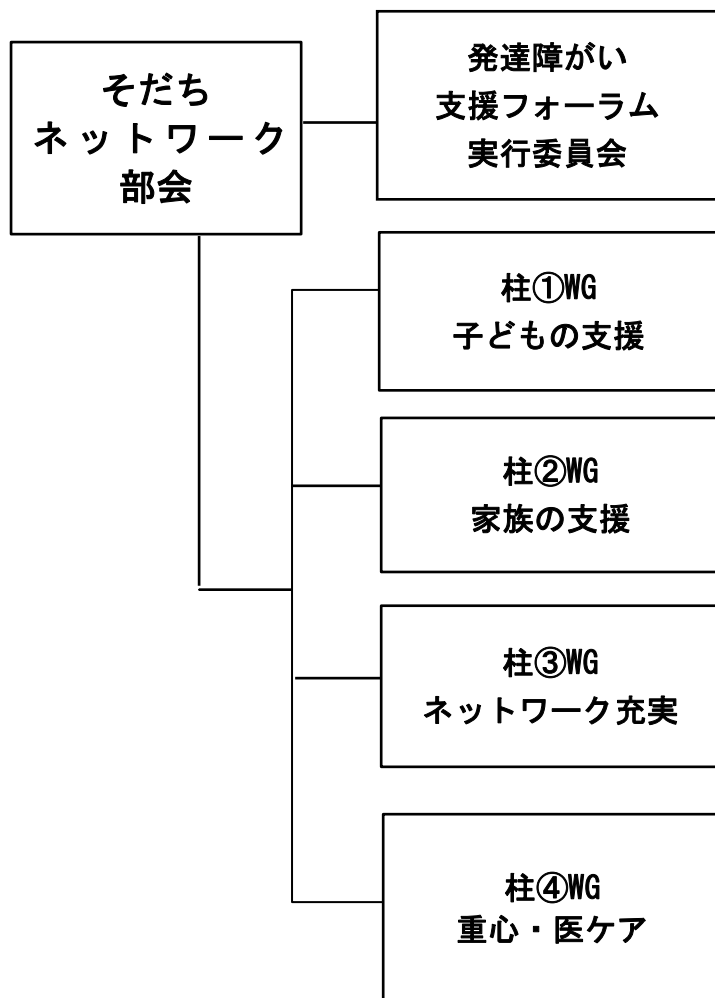
# そだちネットワーク部会 H30 年度上半期活動報告

【目的】様々な障がいや困り感を持っている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくこと

～4つの基本的柱～

- ①子どもの困り感や特性に合わせた支援
- ②家族の気持ちに寄り添う支援（障がい受容の伴走者であること）
- ③関係機関のネットワーク機能の充実
- ④重心・医ケア児とその家族が安心できる地域づくり

## 【主な活動】



● 7/7(土)に発達障がい支援フォーラムを開催をした。「特性を生かして自分らしく生きる」をテーマとし、医学博士の星野仁彦氏による講演会と、星野先生、飯山小学校 LD 等通級教室の岸田先生、保護者によるシンポジウムを行った。生きづらさを感じている方を周囲がどう理解しサポートしていく事が大切なのかを共有した。今後は、「来年度に向けての開催」を協議するため、第 11 回実行委員会を開催予定。

●義務教育段階の小学校から中学校までの支援が途切れない為のシステム作りの検討を進めている。教育委員会とも連携し、試用や実際の導入についての検討を重ねている。

●幼児期からの相談経緯を蓄積していく体制づくり。子どもの発達について、苦手さやネガティブなイメージが目立つ前に、相談の成功体験を積んだり、早期支援の良さを知る事ができると良い。相談をしながら子育てをすることが当たり前と思える土壌を作るため、気になる子に限らず全員に配布するためのリーフレットを検討していく。

●「支援関係者のための相談マップ」の原案が完成。現状で地域には関係機関のネットワークができており、どこに連絡しても必要な機関につながる事ができる。実際の活用のしやすさを重視し、各市町村で中心となる窓口を設定して状況に応じた連絡先が一目でわかるものとした。今後はレイアウトや使い方の説明など検討していく。

● 8月に2回目の親の会を開催した。訪問入浴や災害時についての話題提供をした後、懇談会にてニーズを聞き取った。前回までに挙げた課題について具体的な意見を聞き取る事に加え、ご家族による介護の実態に焦点を当てて聞き取りを行った。また、自立支援協議会より依頼があり、「北信圏域における医療的ケア児に係る連携推進会議」について取り組んでいく。